



桑 技

近代艶隠者

四

13  
3265  
4



3265  
4

近きん代だい施し隠いん者しゃ

卷まき四よ



目録もくろく

一あ輪たの山やまの海うみ

隠かく事ことを以もつて老らう人にん

二ふた才さいの酒さけに志こころをこめて一日いちにち著ある此こゝの海うみ男おとこ

三さん作しやくの世よに中なか

節ふしを以もつて此こゝの濃のう

目録

カ

④ 生死乃海奥 月竜乃舞

⑤ 物の哀ハ秋垣 畢栗此心

① 隠家乃老人

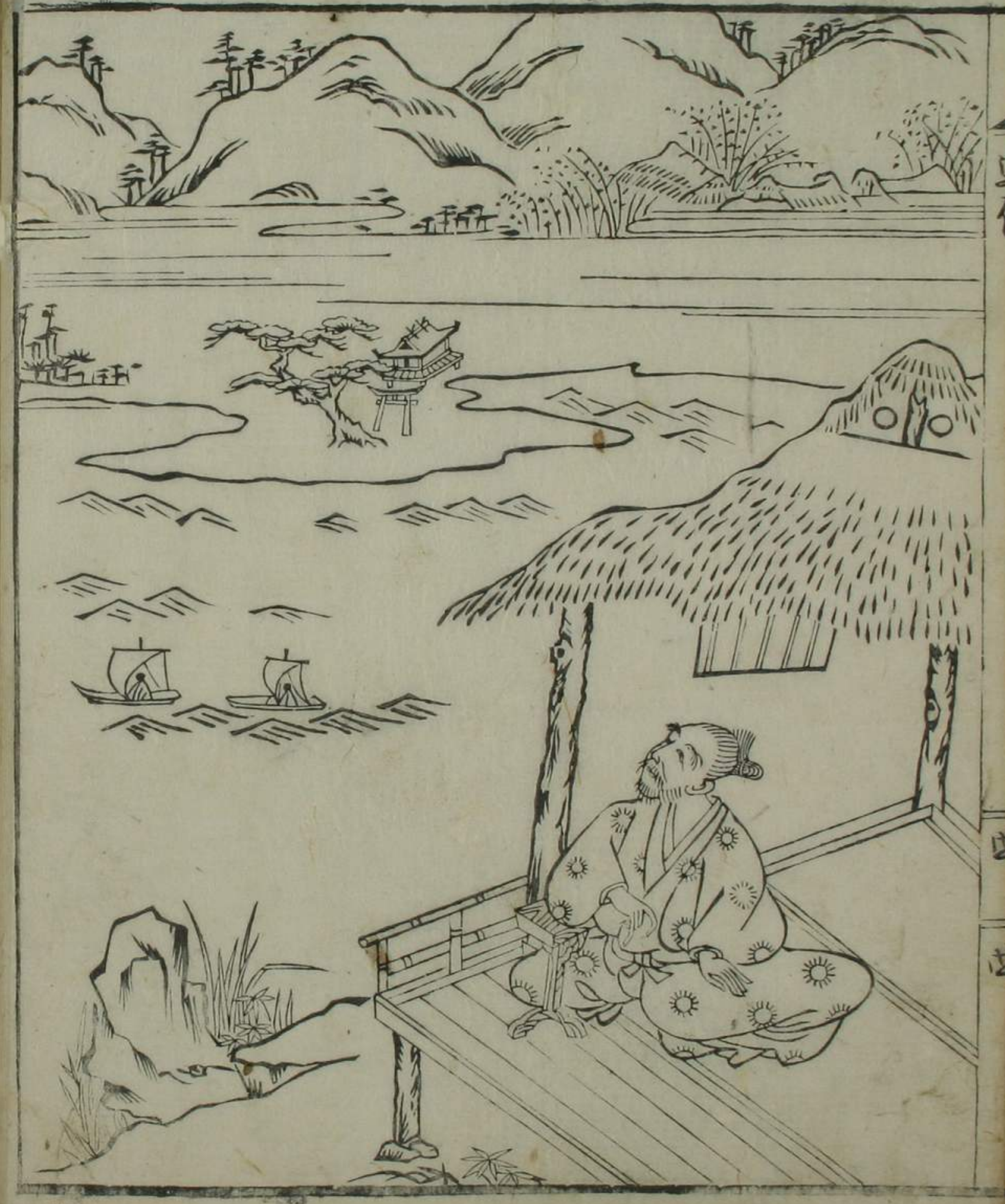
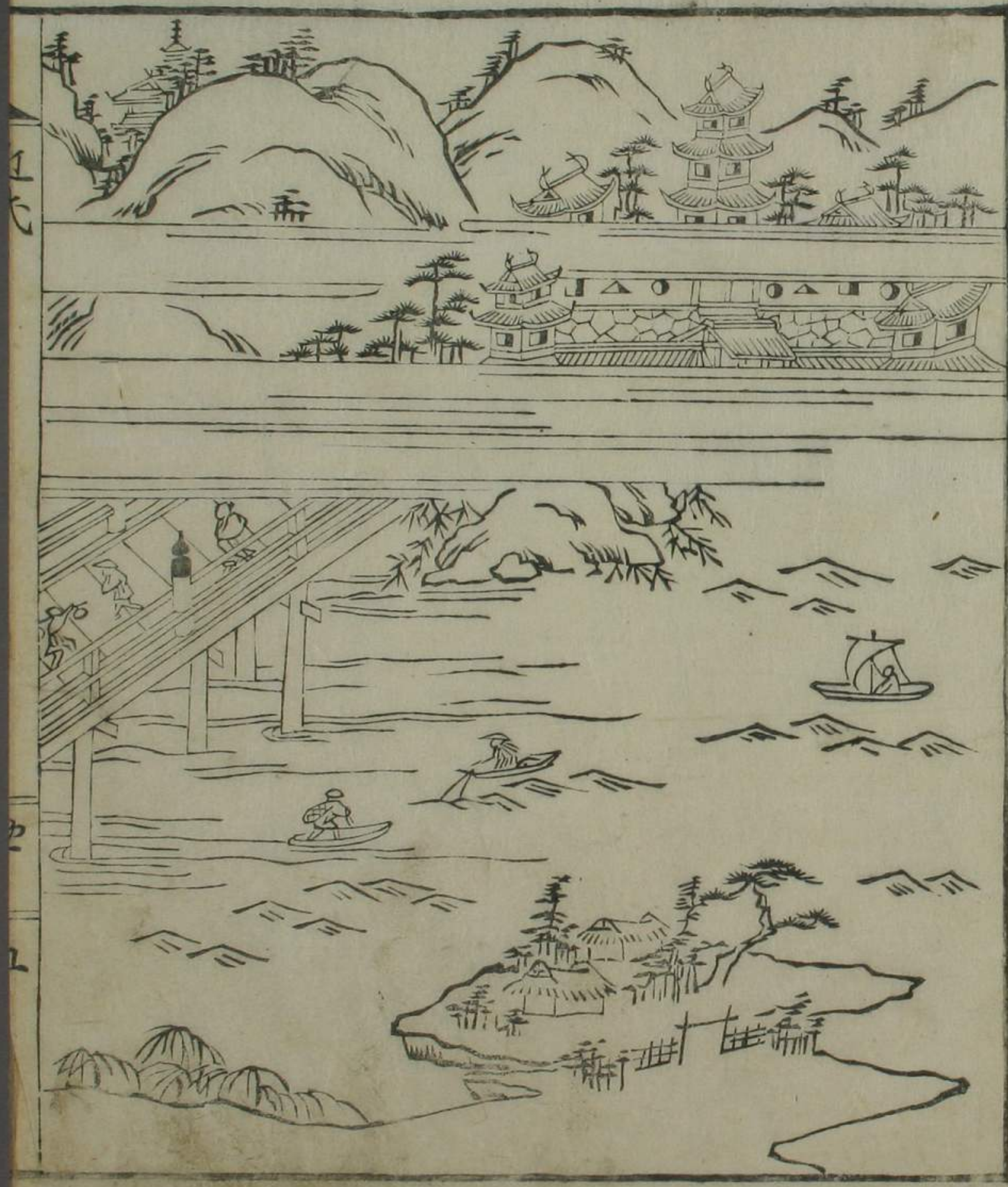
遠坂乃園と越中垣月うる花井れ水子年  
あむすび時神とねい奉海あもせ入三所乃  
輪廻とんたなきぞれむう琵琶と弾どきめ一生  
とらけいと三首れ和奇に人同のまよひを解と  
まひしたどねとひかしく自家乃秋夜再舎別  
離子観と夜光しきあけつたなくと生死とかな  
む事とと五障乃まよひ思なるよたけき以子  
昔に名もろせん湖なとれよる者本此舟芽乃  
帆影濤きそそ白鷺やらに翔と臨まうくくあら  
めた海岩角に芳しく大津れ浦もあつく矢橋と居

す舟便すれど密田に磯の落居群の舟屋  
乃風景松の夕雨の鏡山今宵月乃月  
と見す一夢の如くは漸むれおとを  
馬を草津に在家を却てそれより美法橋より  
と高根乃市井に去る人さうしてかきかき  
おあゝ〜胡〜家と去る人さうしてかきかき  
めぬ嘆息もどき〜ぬ〜夢〜あ〜る〜に二重に植  
芝乃すまひ〜意を好〜き〜風小はるす  
と〜に金〜時を〜ぬ風景は〜や〜色乃光  
月天と平に海〜青〜き〜濁の端に  
白心性一脱〜微得す〜風光究生〜す

半月西の夕陽の灯は電も昔の〜す〜るなせ  
西の夕陽の灯は電も昔の〜す〜るなせ  
き〜も〜屏〜と有花石乃便〜めてり〜家  
飛ぶ〜一字に幕〜す〜掃〜る〜る〜茶葉月  
あると身す〜にや〜事〜な〜戸の向〜り〜  
け〜と〜老〜人〜中〜央〜に〜袖〜香〜煙〜と〜あ〜ら〜ら〜  
沸〜き〜こ〜す〜〜黙〜然〜と〜あ〜ら〜ら〜  
ひ〜ひ〜と〜す〜〜す〜〜  
ゆ〜か〜な〜と〜  
ゆ〜か〜な〜と〜  
な〜ら〜な〜と〜

世と証ありとあらず世塵も塵れ境もあらず天地の  
 外にありて天此の外にありて食せんと出たれん角を  
 好者ハ動弁辭するもの内さぐ。我れ是をさすず  
 らよ。あつて何事れもなされと。孫や老人も昔  
 世俗にありて世俗よりくく人も愛し人も人を愛む。  
 愛し天の理分と天の理曲と天の理知と天の理  
 及も天の理け五つともたれぬ時ふてん乃つて也。愛す  
 事。知も統ずるも世も心なしかれども乃時ふてん  
 事。物もなせも世も心なしかれども乃時ふてん  
 事。物もなせも世も心なしかれども乃時ふてん

皆の事ものありてなりてん入我にありて是  
 天れ自物より吾れけありてひう。之位列しと  
 事。物もなせも世も心なしかれども乃時ふてん  
 事。物もなせも世も心なしかれども乃時ふてん  
 事。物もなせも世も心なしかれども乃時ふてん



二酒樂未乃鉄胃

尾湯名護屋小むと申。室の志だつとく為はる  
 なる申。年々程半余乃男風雨の境とつず腸  
 乃まごさ芳らうきとる。酒子鉄打掛いかなり  
 げよ事くさあも通る。くくま。酔子新てはる。  
 かす事。度重なる。い。か。く。む。ひ。て。あ。あ。  
 され人。存。一。何。回。の。者。も。あ。ね。ど。人。全。座。  
 きて世。と。送。る。もの。にして。こ。あ。ん。と。だ。か。り。て。  
 懐。と。終。る。人。な。り。或。月。去。人。れ。家。に。入。て。終。日。あ。り。  
 着。一。の。序。に。は。田。丸。の。信。あ。り。事。は。な。ら。な。く。な。り。  
 男。れ。分。る。り。一。人。あ。る。て。こ。ま。く。と。鉄。を。字。に。毎。日。

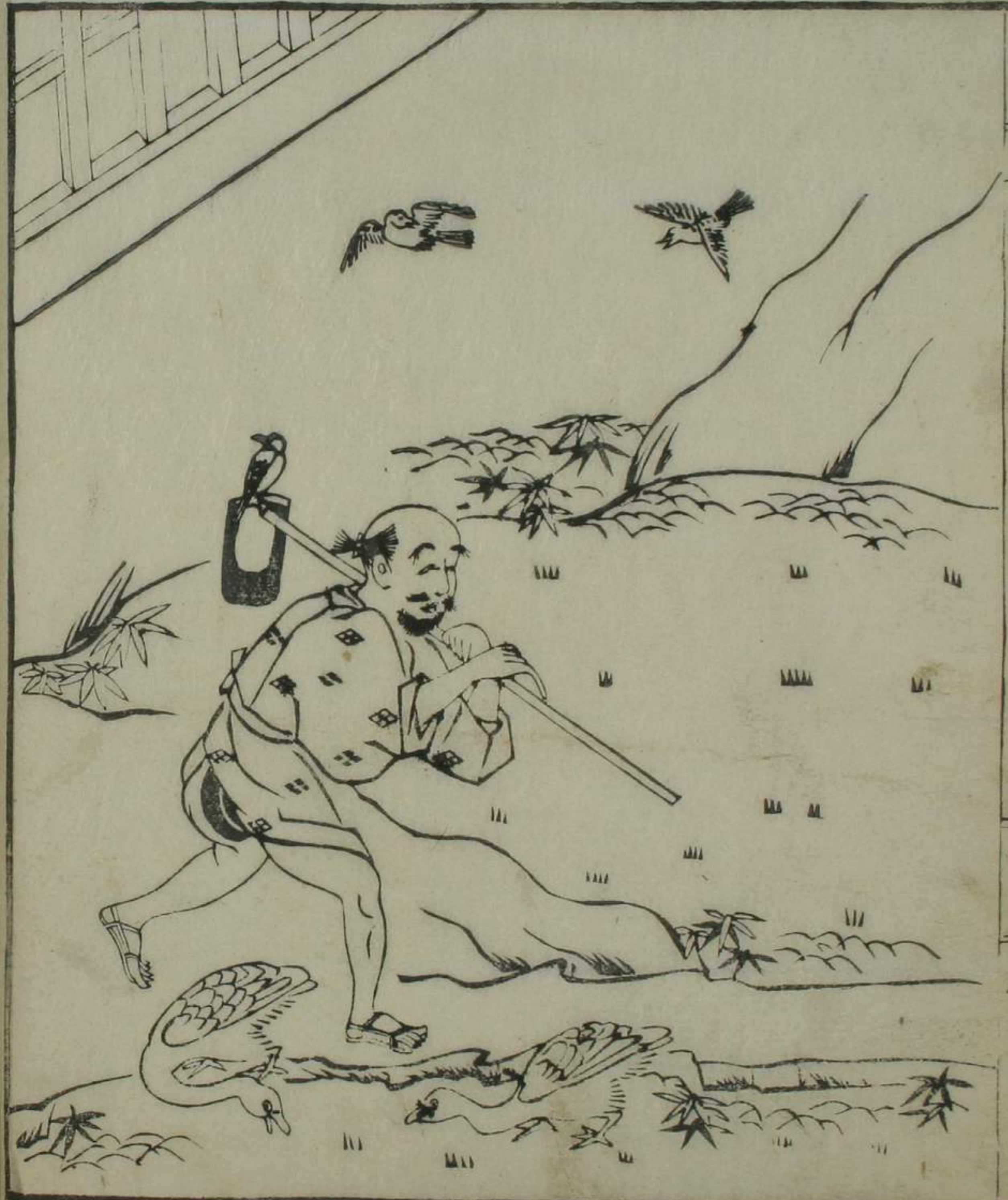
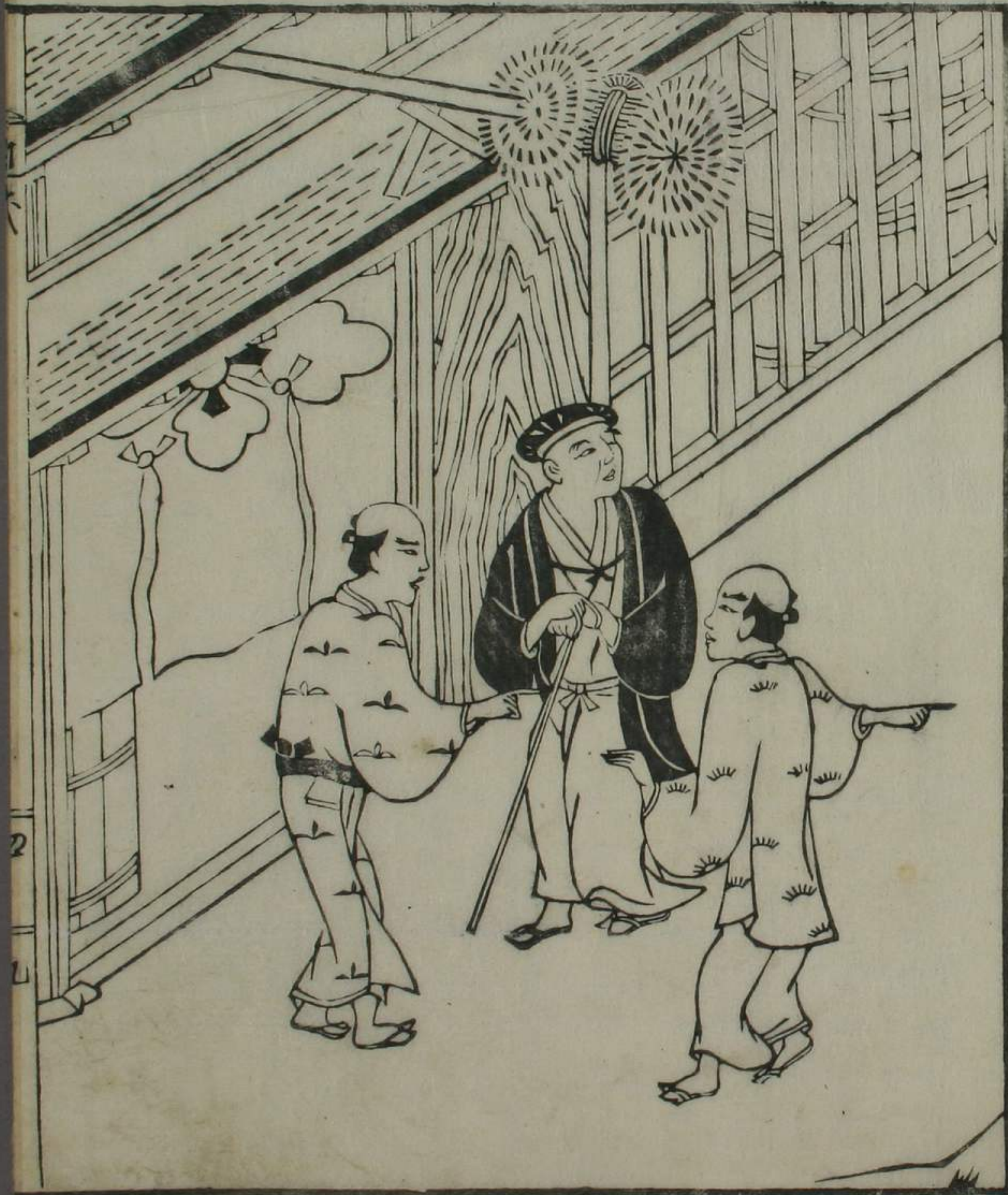
己が肩は髪を流あへよ酒を飲めて舌をい  
 とのま。げよ。帰。が。あ。え。な。き。日。酒。を。へ。と。入。す。  
 け。か。の。角。て。者。の。と。あ。り。て。淋。が。よ。通。る。時。は。  
 年。掛。つ。不。言。と。お。せ。む。乃。是。程。名。づ。け。酒。の。味。の  
 價。と。つ。の。お。お。れ。を。捨。垂。て。お。る。何。極。か。つ。つ。る  
 者。と。氣。と。つ。け。さ。あ。ん。る。に。その。ま。い。や。か。ず。は。  
 け。つ。い。つ。あ。る。者。か。と。問。は。れ。無。同。と。か。つ。ず。信。を。問。  
 ども。い。つ。あ。ら。し。と。あ。ま。不。思。義。な。る。もの。と。い。ふ。ま。う。  
 る。身。一。と。重。て。か。事。の。念。な。ら。ば。家。と。も。人。何。極。か。つ。つ。  
 宿。も。ん。と。ね。り。た。夜。明。ぬ。き。た。又。は。男。例。乃。ど。く。に。  
 通。り。し。う。ま。い。と。思。ひ。て。か。ま。さ。る。と。あ。ん。時。と。い。は。て。

我らるるまき世つて心程小吟歌して来りしは  
入るも動てれ強食がどど酒をとりあし辯して  
云はぬわあ人の為く肩借つても價を乞はれては  
とそ之脈満せり充て吟よ世に此貴也を  
控て吟よと又及よあすとして更に結すまを  
乃事なりと結て帰し是より和書さすて  
よみけつて入るよちるる成道つてあ  
らよ入るよんおれがれよとあしひ見れば  
造一二枚あつるゆよ電に去掛てあ  
とんす家よ入と抱引よを  
ゆよ入るよ萬事なと問も更にい

なよ是世なよまより三帰し  
あ達あれをがまらふあよま下よ  
た世世と一か今とと果よ  
なぬ振がどと夫婦家八五七人  
暮しぬ是と天世  
よ抱れこれ抱子今見えて来し  
トゆき感念していよ酒肴と推  
あよあまびて願すんよよ  
他よ雁揚事かろき我くり  
相よるる我一月糧ハ月乃外  
て何とる吟人若肩よ用あ







三富士郡北質濃

録ありし目年一の富士の事と大なり  
たぬ風景を原乃茶屋をすしひこみ見れ  
るものも病よそこれあるごとく録の事より  
た録にありし事なりこのかた同北郡の事  
つてしてむしむる事なれば内乃田舎宿  
け雲より見る界の形はひさしほり  
なるとかかき録ありてありし事なり  
るなりなる事ありて事なり録にありし  
こらす一村の事なり濃ありし事なり  
てあれがけは地靈なりて雲が亮事なり

うけひの彌屋法園子に浦浪金巻と題し  
催る途真熊文志事なりて樹猿と号する  
漢文約筆とありて水も伴ふけ杭実の腸を  
新の初もひ昔月あ人の録なりとありし事なり  
て分なりぬ個は袖とありて後ほりて寺に立  
たりんれた標の法師法華とありてありし事なり  
にこそありし事なりとありし事なり  
な一浮世の佛世のむしと後ほりてありし事なり  
録にありし事なりとありし事なり  
ひ雲れ見し標に思ひよ事なり法師にむしりて行國  
にの心と好く又八倉家の野史とありし事なり

け系は民徳を神あがす分て飢ゆるまゝにんえずおこ  
ほきひゆけし見人傳る馬下け里に任せ給ひあ  
由法の事をも親しき事ゆゑにんおんあまのあま  
にてあんに鑑よ信傳る我の海にけしは事とさ  
事ゆらんさきどもにけしは事ゆゑにんあまのあま  
るれ業もまゝにびてまの半創事新あつてあまの  
まより信傳る親しき事ゆゑにんあまのあま  
と事し業か向に信傳る事ゆゑにんあまのあま  
なるべきどもあまのあまのあまのあまのあまの  
かひゆるまゝに信傳る事ゆゑにんあまのあま  
るれ業もまゝにびてまの半創事新あつてあまの

よれつもの物いす相く起て從者に先立て畑を打回  
かして身もあまのあまのあまのあまのあまの  
もあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
るれ業もまゝにびてまの半創事新あつてあまの  
まより信傳る親しき事ゆゑにんあまのあま  
と事し業か向に信傳る事ゆゑにんあまのあま  
なるべきどもあまのあまのあまのあまのあまの  
かひゆるまゝに信傳る事ゆゑにんあまのあま  
るれ業もまゝにびてまの半創事新あつてあまの

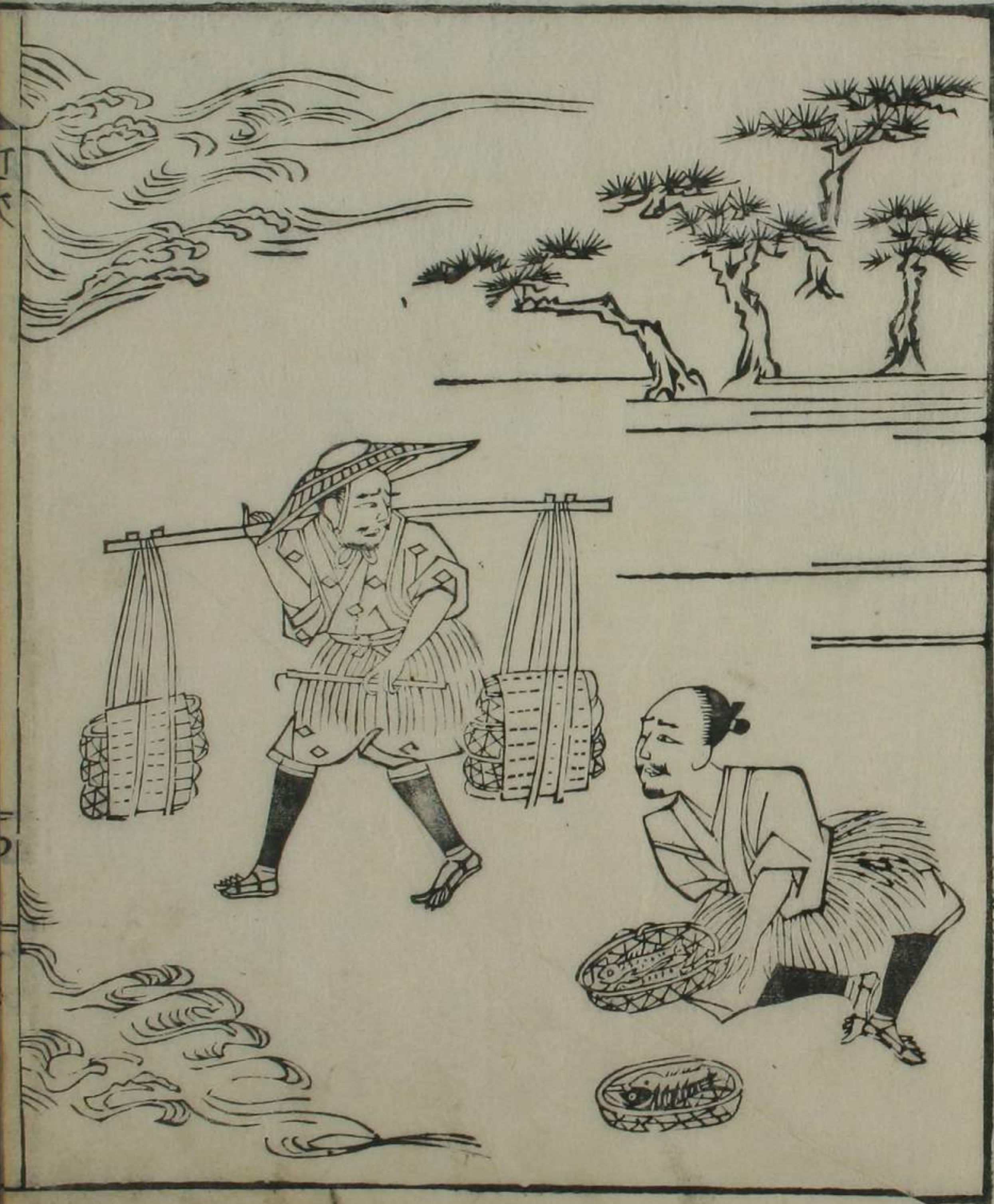


一人が思ひては家も存りなきに似たり  
 づきの神子野つゝおれとあはれ揚て  
 さうとあつた海に三回も半余り男乃親の本像と辨し居る  
 婦人等と波て庭の好いあつたをいひ居たり  
 今今に三つ此に何れを隣の境に居るかと尋ね  
 賢あると答にお尋ねは男と女と切斷て男止とけ罷りけり  
 と知れ男を尋ねて云我れとてけり  
 とある原を尋ねて云ありとてけり成事と云ふと果は原がす  
 とてとあつた源と新と果はけり今も機と尋ねて云ありとて懸す  
 神とてあつた平月身も海原と云ふに西のたゆ  
 らぬとてけり



人仕事はては業も。も價も。りて酒も。  
て史も。侍史も。二入。改。か。あ。け。て。飲。ぬ。胡。々。乃。  
聖。と。と。も。き。ま。れ。け。だ。ら。も。多。く。陳。家。親。の。  
世。も。一。牛。未。成。と。信。す。人。も。一。周。と。之。を。あ。ま。り。移。す。も。  
あ。ま。り。と。し。胃。と。結。ぶ。に。奥。路。く。れ。ひ。て。毛。早。走。  
乃。家。子。好。も。見。れ。ん。古。き。今。紙。の。あ。ま。り。好。は。  
嘆。系。子。分。と。高。う。格。て。油。火。也。よ。か。け。て。飛。ん。  
け。と。れ。一。げ。る。海。狹。は。麻。と。油。燈。も。も。茶。あ。な。と。と。  
乞。情。ま。う。一。種。と。て。そ。志。と。同。し。男。の。別。子。何。乃。  
ら。う。と。あ。ね。ど。長。あ。の。果。物。と。あ。ま。り。事。と。ま。  
治。人。を。信。む。事。と。ま。治。人。と。ら。う。事。事。と。ま。治。人。

と。悲。む。事。と。ま。治。人。富。も。に。あ。ま。り。事。と。ま。治。人。今。  
れ。情。ま。う。と。ま。治。人。乃。事。事。と。ま。治。人。今。身。と。ま。  
治。人。と。ま。治。人。一。世。れ。利。と。ま。治。人。も。分。と。知。す。か。  
分。と。た。れ。お。物。也。あ。ら。う。れ。一。人。の。信。者。乃。事。事。と。  
す。事。と。ま。治。人。と。ら。う。な。け。れ。も。自。れ。及。と。思。  
へ。と。我。も。信。者。天。を。と。ら。う。治。人。只。春。秋。を。あ。  
に。お。る。自。ら。も。目。也。高。て。善。次。の。事。と。一。日。と。  
訊。る。事。と。ま。治。人。と。ら。う。あ。ま。り。事。と。ま。治。人。と。  
高。和。の。條。を。と。種。と。て。今。日。と。ら。う。治。人。事。事。と。  
と。訊。る。に。又。向。自。れ。の。條。を。と。ら。う。治。人。と。ま。治。人。  
と。賣。金。和。の。物。と。何。也。人。の。施。す。や。と。た。た。と。



幾つてくちか身元をいひ出さうれだせぬあはれ  
 身も心も命もあはれ明日またいふよりあはれ  
 こゝろもあはれいひて命もあはれあはれあはれあはれ  
 つよよの糧ともして明日は糧となす事志すあはれ  
 目も糧足ぬれだはる人の為は強まらざる人  
 こゝろをたてたるあはれあはれあはれあはれあはれ  
 一とあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 やうくあはれあはれあはれあはれあはれあはれ





現の法今諸も中くこころをいひていふことごとく  
蜀の家の家子に於て貧乏といふ事と云ふは月夜に  
ほろろと金葉とてこころごとく同一の心と云ふ  
よて明くお尋ね申曲れ少童とて言きてさう  
時六年に於て一海婦と物となりてお世の中  
とらげんやゆを申すと諸のて昔とていふ  
歎きまづいひてやれまると諸の有りて  
海影とて白く是にわらさつて羽ありまづ  
いけてゆらけく傾け乃諸の事とて是世と  
おひな海と観ずればおの満ちていふなる  
樂とて成てしよとたけいふあはれかたなり

世れ外なる樂とていふと思惟一風とていふ  
事れ外なる事とていふと思惟一風とていふ  
かゝる海女の海女とて書に細くと潤へ  
と切捨て畢業と抱て何國ともいふ  
まるといふ海女とて見強すおとなく  
いたのいふ海女とていふと云ふ  
とて海影ひなけきとていふと云ふ  
かれ助とていふと云ふと云ふと云ふ  
種乃あはれいふと云ふと云ふ



